

# こぞりて来たれ、大規模補修特別委員会へ！

初代大補特C委員長

## おもな活動

- ・補修によって吉田寮の老朽化を解消できるか検討する・実行に移す
- ・自力での補修、建物の維持のためのイベント（土木作業日）を主催する

## 大規模補修特別委員会とは

特別委員会とは、寮に関わる問題について継続的に取り組むための、寮自治会下の（つまり寮が公式に設置する）委員会です。それでは、「大規模補修」の名を冠するこの特別委員会は何に取り組んでいるか、というと「古くなった吉田寮の建物をどうするのが最善なのか考えること」と言えるでしょう。

## どういう問題に取り組んでいるのか

問題の根っこは、見ての通り吉田寮は木造で築100年近く、老朽化が年々進んでいることです。これを解決するために、二十年と言わず以前から寮自治会は大学に対して建て替えを要求していました。しかし、長年の間それは実現されず、そうしているうちにも老朽化は少しずつ進んでいきました。

2005年頃には、現在の建物を大きく（柱や土台など構造的な部分を）補修することである程度の期間（数十年のスパンです）老朽化を解決する、という方針がとられました。このときには大学も乗り気で、耐震強度調査や設計が実際に行われました。しかし、実施を待つばかりだった補修計画は2006年になぜかストップしてしまいました。現在でも、大学内でどのような検討を経てストップしたのか、明らかになっていません。

そして、2006年10月、大学から突然の建て替えの提案がありました。回答期限が1カ月もなかった中、寮生は連日会議を行いました。補修の方針を取り続けるか、建て替え案に乗るか結論は出ず、結局大学との交渉は物別れに終わります。このとき寮生は真剣に寮の未来について話し合った結果、ひどく疲弊しました。そうして、老朽化問題は、取り組まなければならない重要な課題であることを誰もが認識しながら、

議論は停滞してしまっていたのです。

それではいけない、と2009年7月に発足したのが、この「大規模補修特別委員会」です。寄宿料の値上がりなどが予想されるが建物は新しくなる建て替えか、寄宿料の安さもふくめ現在の吉田寮のよい所を継続できる大規模補修か。これを議論するためには、補修の可能性・現実性をいま一度検討する必要がある、と考えたからです。

## 活動内容

具体的な活動としては、2005-6年ごろの資料を見直すとともに、木造建築を補修・保存する専門家にお話を聞くなどして、どうすれば十分な補修を（できるだけ安く）行えるか学んでいます。その中で大きな発見は、「この建物の老朽化を食い止めるため、また、強度を建築当初の状態に戻すために、自分たちの手でできることは少なくない」ということでした。

そこで、月に一度、第2土曜日に「土木作業日」というイベントを企画し、寮生と寮に関わる寮外の人で、土台にかかる土を掘ったり、建物に肉薄する木を剪定したりしています。詳しくは、土木作業日の紹介があるのでそちらをご覧ください。みんなで体を動かして、それが寮のためになっている、結構これは気持ちいいものですよ。

## 終わりに

寮に入っても入らなくても、吉田寮がどれだけ素敵で、どれだけ古くなっていて、どんな未来が見えるのか、知りたい人はぜひ大規模補修特別委員会の活動に注目を！寮の電話（075-753-2537）や、吉田寮に立ち寄った時に「大規模補修特別委員会（略してだいほとくC）」を呼び出してもらえれば、そのとき寮にいるメンバーがいろいろとお答えします。

毎月第2土曜日の軽作業イベント「土木作業日」はだれでもウエルカムです。開始時間に寮の受付集合！ 毎回作業後には打ち上げ（みんなでご飯、作業に参加した人は無料！）やります。日時や作業内容は、東大路通りに立て看を出したりしてお知らせします。作業の成果はビラにして、学内でもまく予定です。

こんないい建物、何もせずに潰してしまっはもったいないじゃないですか